

地域おこし協力隊活動報告書

活動団体	一般社団法人リバーバンク
役職	
氏名	鈴木秀典
着任日	令和5年10月1日

活動月	令和7年7月(着任1年10ヶ月)
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ・川辺祇園祭 ・協力隊の勉強会 ・お試し移住拠点視察 ・移住フェアへの参加 ・始終イベントの視察(志布志市主催) ・本屋×〇〇の視察 ・認知症関係のイベント参加 ・茶とまる出展者のイベント視察

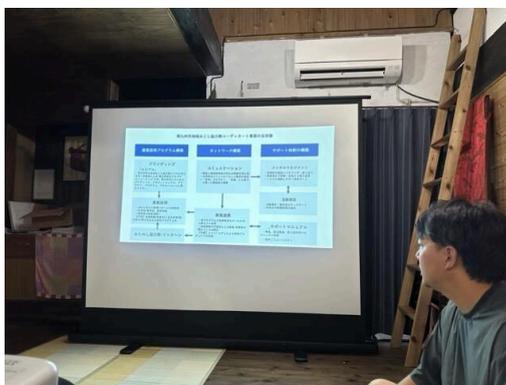
・川辺祇園祭

今年で100年目となる川辺祇園祭に青年部として準備段階から参加をした。地域の皆で一丸となって準備をし、神輿を担いだ。祭りというイベントを通して、地域の誰が何をできるかという職能の見える化は、これから過疎を迎えていくいろいろな場所において、行政に頼り切らない本当の意味での自治の縮図のようにも見え、ただイベントを続けるよりもっと大切な意味があるように感じた。



・協力隊の勉強会

協力隊の交流が活発になっている南九州市において、総務省のアドバイザーもしている吉村佑太さんを招いてのイベントはとても価値あるものとなった。地域の事業者の方も参加していただき、それぞれの隊員の活動の発表を聞いていただく機会は今まで持てなかったのが、今後より地域と隊員が一体となって動きかけになってほしいと感じた。



地域おこし協力隊活動報告書

・お試し移住拠点視察

南九州市のお試し移住拠点を視察し、今後域外から人を呼ぶために必要な情報や設備について考えた。武家屋敷の中という特殊な場所にあるため、地域の生活を感じにくい部分があるように感じたが、南九州市の魅力を感じていただくにはとても重要な拠点になると感じた。



・移住フェアへの参加

東京のふるさと回帰支援センターで行われた移住フェアは、30名を超える参加者の方が参加し、それぞれの市の魅力について発信する機会となった。個別相談にきていただいた方はそれぞれ南薩にルーツを持つ方で、移住先としてより具体的に検討をしていただけそうだった。



・移住イベントの視察(志布志市主催)

今後南九州市も独自のイベントを県外で開いていくことで、関係人口を増やすことができるのではないか。という仮説の元、志布志市が行なっているイベントに参加した。

市に興味を持つきっかけづくりにはとても適しているように思え、観光の次のステップとして地域の事業者と関わっていける場を作ることの重要性を感じた。



地域おこし協力隊活動報告書

・本屋×〇〇の視察

人が気持ちよく集まれる場所をどう作るかということを考えながら、観光と日常がうまく混ざり合っている事例として谷中で商売を営んでいる店舗の視察を行なった。



・認知症関係のイベント参加

ボーダレスの田口さんと但馬さんのイベントがあることを知り、福岡で参加をしてきた。認知症をテーマとし、今まで開くとされていたものに対してまだ皆の意識が低く、なかなか理解が進まない認知症をより軽やかに、映画や紙媒体を使って広げようとしている活動はとても重要に思えた。



・茶とまる出展者のイベント視察

茶とまるに出展してくださっていたお二人の作家さんがイベントをされているということで、視察をしてきました。全国を飛び回り、クラフトの良さを伝えているお二人。話がとても面白く、これからも活躍を見守りながら、また南九州市にもお越しいただけるように場作りをしていきたいと思う。

